

The Review

第20期 中間報告書
(2011年4月1日～2011年9月30日)



Sun Capital Management Corp.
燦キャピタルマネージメント株式会社

証券コード:2134

再生、そして新生、創生へ。

私たちのステージはいま、日本からアジア、そして世界へと拡がりつつあります。培ってきた金融技術、そして安全性や社会性を重んずる気持ちの真価が問われるときです。成長への第2幕が始まります。



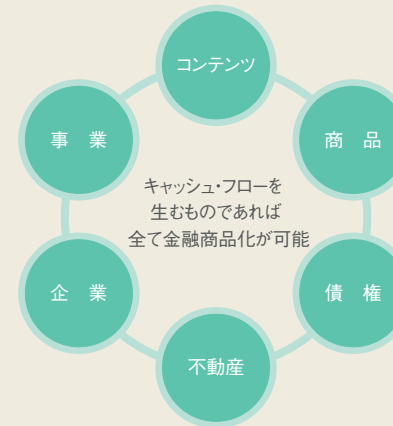
燦 (sun) キャピタルマネージメントは・・・

独自のストラクチャード・ファイナンス（仕組みづくりを伴う金融）機能を活かし、投資事業および投資マネージメント事業を展開する投資会社であり、金融商品メーカーです。投資対象となる不動産や企業を再生・新生・創生して価値を高めることで、地域社会や国、そして世界に貢献していきます。

Hands-on Financial Business

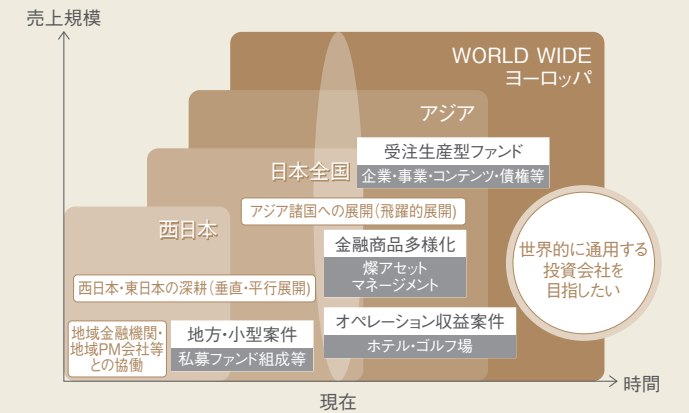
当社グループの投資対象は、基本的にキャッシュフローを生むもの全てを投資対象としております。投資対象の選定につきましては、「市場のニーズ」、「顧客のニーズ」の確認を常に行い、顧客に支持される優良物件等のみを選定しています。とくに、ファンド市場へのニーズは、当社グループがこれまで主力としておりました不動産だけでなく、事業・企業・コンテンツ・債権・知的財産権等ソフトに関するものまでファンド化することが求められ、その種類も多様化しております。今後もっと幅広い事業分野で、よりグローバルな投資事業を展開し、世界的に通用する投資会社を目指します。

○金融商品のバリエーション



○地域貢献策

当社グループは、地域の発展を軸に、世界的に通用する投資会社を目指す。



燦 (sun) キャピタルマネージメントのビジネスの特長

当社グループの投資規範は「収益性」・「安全性」・「社会性」このいずれかが欠けても投資しません。ファンドビジネスというのは、「投機」と同一視されがちですが、本来は「育成する」という視点を持っています。私たちのビジネスは「地域貢献」を基本において「持続性」のある事業展開を行います。

事業再生や業務提携を通じ、国内外で新事業を展開します。

皆さまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
東日本大震災に欧州経済危機などが重なる中ではありますが、当社は新たな成長機会を求め、さまざまな取り組みを進めております。ここでは当社社長の前田健司が、最近の事業展開についてQ&A形式でご説明いたします。



代表取締役社長
前田健司

» この上半期の経営環境は？

最悪に近かったですね。震災の影響で日本経済が混乱し、最近ようやく落ち着いてきたような状況で、予定していた投資や不動産売却を下半期にずらすざるを得ませんでした。

» その中で、どのようなことに取り組んできた？

将来の成長に向け、粛々と手を打ってきました。中でも大きかったのが、「Xmiss（キスミス）」などの著名ブランドを手掛けるアパレルメーカー「エスシステム」の全株式取得と、台湾の大手企業グループ「潤泰全球股份有限公司（Ruentex）」との業務提携に関する基本合意書の締結です。

» 不動産イメージの強い燦だが、アパレルに投資したのは何故？

誤解されやすいのですが、当社は不動産投資に特化した企業ではありません。キャッシュフローを生んで世の中に役に立つのであれば、企業にも投資します。そもそも、第1号ファンドもファッションブランドへの投資で、この分野には以前から関心を抱いていました。一度火が付けば瞬間に売上が伸びる業界だからです。

» 「エスシステム」を選んだ理由とは？

主力ブランドの「Xmiss」が今の時代に合っていることが一番の理由です。「Xmiss」は20代女性をターゲットとしたブランドで、広い層に好かれるコンサバティブで可愛いデザインが特長。16の直営店を展開し、有名ファッション誌とも強い繋がりを持ちます。震災後、ファッションの流れがコンサバティブ系に傾いていることもあり、今後の急成長が見込めると判断しました。

現在、人気デザイナー・林秀三氏を招聘して商品力の強化に取り組んでおり、従来シーズン毎だった商品投入頻度も上げていきます。

アパレルメーカー「エスシステム」の全株式を取得

当社はこのほど、女性向けブランド「Xmiss（キスミス）」「vanessabruno（ヴァネッサブリューノ）」などを展開するアパレルメーカー「株式会社エスシステム」の全株式を取得しました。今後は同社の国内外における事業展開を支援し、当社グループの成長へと繋がります。



Xmiss店舗

» 一方の「Ruentex」との業務提携については？

「エスシステム」が以前から同社と、「Xmiss」のブランドライセンス供与に関する交渉を行っていたことが縁となって実現したものです。既に交渉は締結に至り、台北市には「Xmiss」第1号店がプレオープンしています。日本の店舗を上回るほど魅力ある店舗ですよ。

Ruentex社と業務提携

当社はこのほど、台湾屈指の企業グループ「潤泰全球股份有限公司（Ruentex）」と、業務提携に関する基本合意書を締結しました。Ruentexは、紡績・服飾事業をベースに、建設、金融、流通量販、医療、教育などの各種事業を台湾や中国で展開しています。今後は、当社傘下の女性向けブランド「Xmiss（キスミス）」などを台湾・中国で共同展開するほか、同社のインフラを活かした他の共同事業の実施についても前向きに検討します。



Ruentex本社



Xmiss台北店

» 中国本土でも共同で事業を展開するとか。

同社は中国に強力なネットワークを持ち、200店舗以上のショッピングセンター「大潤發（RT-MART）」を展開しています。

今後はこの店舗網に「Xmiss」を乗せていきます。ライセンス供与のため、当社には資金負担はかかりません。日本では考えられないスピードで出店が進むはずですよ。

また、アパレル以外の分野でも共同事業を進めていきます。同社は元々紡績から発展してきた企業ですが、現在では金融や建設などさまざまな事業を手掛けており、今年11月には、国際的な大手保険会社の台湾現地法人を傘下に収めています。金融関係は当社が得意とする分野でもありますし、こちらの方でも提携ができないかと考えています。

ともあれ、これほどのチャンスは滅多にありません。さまざまな分野で共同事業を進め、ゆくゆくは合弁会社を上海市場に上場できればと思います。

» この他に、アメリカでも新たな展開があったそうだが。

昨年未に出資した「PRECAグローバル社」が本格稼働に入ります。日本の投資家をまとめることからネットワークを上げてきましたが、いよいよ海外から日本へと資金を呼び込む仕組みが整いました。「Ruentex」の金融部門の協力も仰ぎながら、ビジネスを拡大する方針です。リーマン・ショック以来事実上凍結していた国内不動産への投資を、この下期から再稼働させます。

» 急速にグローバル展開が進んだ？

創業の頃から構想していたことです。ようやく最近になって形が見えてきました。企業を大きくしようと思えば、内需の伸びに限られる中では、どうしても世界とのネットワークが必要となりますから。

» 燦をどのような企業に育て上げようとしている？

目指す姿は、戦前の三井合名や住友グループ、またはフランスのLVMH（モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン）のような、強力な指導力を持つ持株会社を中心としたグループ展開です。あのやり方が一番伸びます。

また、強い企業集団を作ろうと思えば、金融だけでなく実業を手掛けることも不可欠です。「エスシステム」の買収もそのために、持ち前の金融技術を裏側で活かし、業績を伸ばしていきたいと考えています。

» 注目を集めている「大阪エンターテイメントシティ(OEC)」構想については？

現在、公募期間中により、お答え致しかねますが、時期がくれば正式な形で皆さまにご報告申し上げます。

» 下半期以降の展開は？

8月に修正した連結業績予想（売上高20億47百万円、当期純利益3億20百万円）をクリアしつつキャッシュを作り、来期からの中台米にまたがる事業展開で使えるようにしたいですね。

この3年間、縮こまって生き残ることに専念する“冬の時代”を過ごし、今ようやく再び走り始めた状態です。第2の創業期に入ったと言っても良いでしょう。当社を本当の企業体に育て上げるために、組織もきちんと作り上げていきたいし、新卒を採用して起業精神が浸透した社員も育てたい。やりたいことがたくさんあって、自分自身、ワクワクしています。

» 社会貢献にもいちだんと力を入れているようだが。

社会貢献は、企業にとって当然の責務だと考えています。経常利益の1%を社会貢献に使う、経団連の「1%クラブ」に加入したいくらいです。西日本を中心に、地域活性化のお手伝いなどを手掛けています。

このたび、初めての試みとして、米ハーバード大学に寄付講座を設けました。国内外で広く人材を育てていくことが目的です。今後は奨学金や医療にも支援の範囲を広げ、若者たちがそれぞれの国を支える良い大人になる手助けができればと思います。



代表取締役社長

前田 健司

1964年、福岡県北九州市生まれ。成城大学法学部を卒業後、1989年にオリックスに入社。審査部などを経て1997年に退社し、燦キャピタルマネージメントを設立。現在、同社代表取締役社長のほか、北九州市ひまわり大使なども務める。



2年後に迎える北九州市制50周年のプレライブイベントを共催

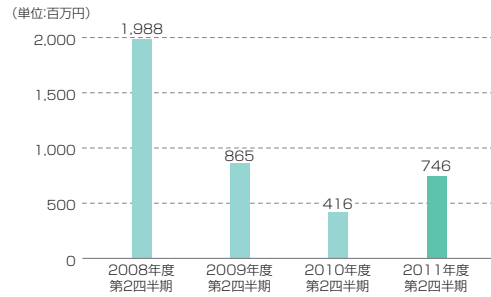
当社は、2年後に迎える北九州市制50周年のプレイベントとして11月26日に福岡県北九州市で行われたライブイベント「NQ テイクオフ ライブ！ SKY HIGH with 清水翔太&SHUN@KITAKYUSHU2011」を、北九州ミュージックフェスタ実行委員会と共催しました。

このライブイベントは、市制50周年を機に北九州から最先端カルチャーを発信していくプロジェクト「NQ ACTION 50」の一環として行われたもの。当社社長の前田健司が北九州市ひまわり大使を拝命しているご縁から、ご協力することとなりました。清水さんは実力派として知られるソウル系シンガーソングライターで、当日には満員の観衆の前に熱いライブを繰り広げられました。



NQ テイクオフ ライブ！

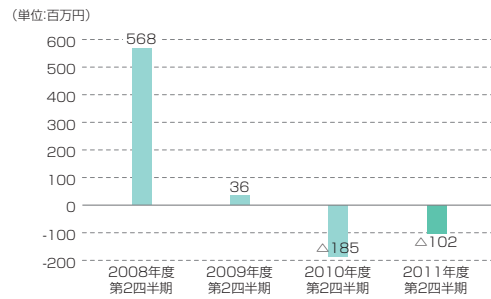
売上高



746百万円
(前年同四半期比79.3%増)

売上高は746百万円(前年同四半期比79.3%増)となりました。国内の金融・不動産市場は落ち着きを取り戻しつつありますが、EU諸国の金融情勢が予断を許さず、国内市場の収縮要因となっています。

経常利益(損失)

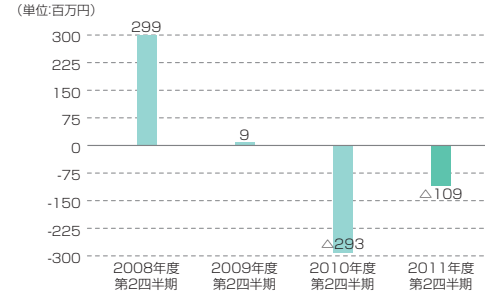


△102百万円
(前年同四半期は185百万円の経常損失)

経常損失は102百万円(前年同四半期は185百万円の経常損失)となりました。保有不動産からの賃料収入、ファンドの管理報酬などを安定収益としつつ、不動産投資でも収益を得ましたが、東日本大震災の影響からホテル事業では厳しい状況が続きました。

キャッシュ・フロー指標 (単位:百万円)	2008年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	2010年度 第2四半期	2011年度 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,034	143	△11	△58
投資活動による キャッシュ・フロー	△162	△31	△377	△93
財務活動による キャッシュ・フロー	△402	35	△47	142
現金及び現金同等物の 四半期末残高	624	365	382	206

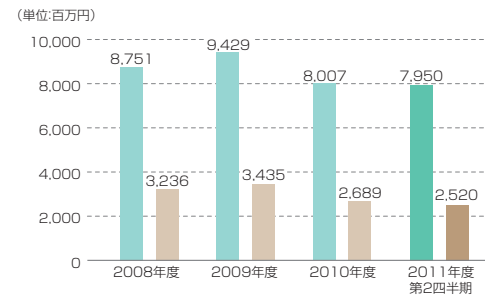
四半期純利益(損失)



△109百万円
(前年同四半期は293百万円の四半期純損失)

四半期純損失は109百万円(前年同四半期は293百万円の四半期純損失)となりました。投資目的の株式に係る投資有価証券評価損、投資事業有限責任組合出資に係る投資事業組合運用損、本店移転費用などを特別損失として計上したためです。

総資産・純資産



総資産 7,950百万円
純資産 2,520百万円

総資産は7,950百万円(前連結会計年度末比57百万円減)となりました。有価証券が91百万円減少した一方、投資有価証券が45百万円増加したためです。純資産は、四半期純損失の計上などから2,520百万円(同169百万円減)となりました。

1株当たりの指標他 (単位:円)	2008年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	2010年度 第2四半期	2011年度 第2四半期
1株当たり 四半期純利益(純損失)	40,708.44	184.09	△4,972.46	△1,846.32
1株当たり 第2四半期末配当金	600.00	600.00	600.00	0.00
1株当たり配当金 (2011年度は予想)	1,200.00	1,200.00	1,200.00	0.00
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度 第2四半期
1株当たり純資産	110,739.50	37,080.83	29,859.79	28,010.51
自己資本比率(%)	18.6	23.2	22.0	20.8

投資事業

[主な投資対象]
鳥取カントリー倶楽部・グランドホテル松任

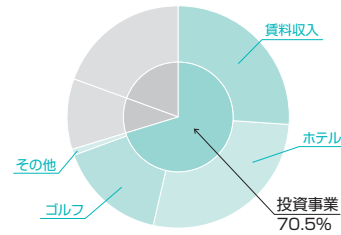
売上高 526(百万円)

事業内容

- 優良不動産（賃貸マンション、オフィス、商業施設）、企業、事業などを中心とした投資管理

当第2四半期連結累計期間の概況

当社保有の不動産からの賃料収入、ゴルフ場売上、ホテル売上等の結果により、投資事業の売上高は526百万円（前年同四半期比62.3%増）、セグメント損失（営業損失）は106百万円（前年同四半期は83百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。



アセットマネージメント事業

[主な事業会社]
燦アセットマネージメント

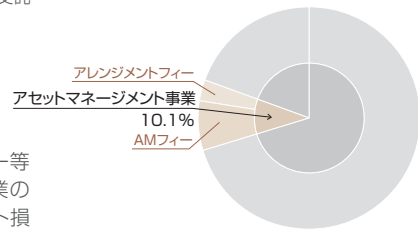
売上高 75(百万円)

事業内容

- 特別目的会社（SPC）のアセットマネージメント（資産管理）業務の受託
- 私募ファンドの立ち上げおよびその事務管理業務
- そのほか、投資スキームおよび資金調達企画立案などファンドビジネス全般業務

当第2四半期連結累計期間の概況

アセットマネージメント業務報酬、ファンドからの管理フィー等を計上したこと等の結果により、アセットマネージメント事業の売上高は75百万円（前年同四半期比4.4%減）、セグメント損失（営業損失）は36百万円（前年同四半期は62百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。



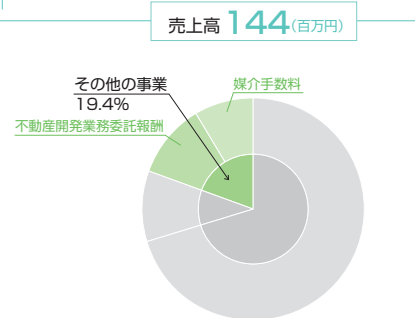
その他の事業

事業内容

- アドバイザー業務、仲介業務およびその他コンサルティング業務

当第2四半期連結累計期間の概況

アドバイザー業務報酬およびOEC構想に係る開発業務報酬等の結果により、その他の事業の売上高は144百万円（前年同四半期比990.7%増）、セグメント利益（営業利益）は69百万円（前年同四半期は13百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。



会社概要

社名：燦キャピタルマネージメント株式会社
(英文表記) Sun Capital Management Corp.

創立：1992年9月

資本金：8億6,625万円

従業員数：25名（連結73名）

本社所在地：〒541-0048
大阪市中央区瓦町二丁目3番15号
TEL.06-6205-5611
FAX.06-6205-5711

事業内容：投資事業 ソリューション事業

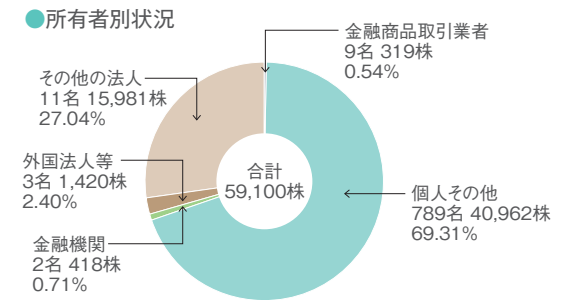
役員

- 代表取締役社長：前田 健司
取締役副社長：佐々木 康裕
取締役：金森 昭彦
宮本 則昭
監査役：岸川 浩一（常勤監査役）
河合 徳彦（常勤監査役）
中島 洋
金子 歩

株式の状況

- ①発行可能株式総数・・・146,400株
- ②発行済株式数・・・59,100株
- ③株主数・・・814名

株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
前田 健司	15,780	26.70
株式会社ISホールディングス	15,000	25.38
佐々木 康裕	4,800	8.12
増田 洋介	1,800	3.04
バンク ジュリウス ベア アンドカンパニー リミテッド	1,410	2.38
崎山 昭仁	945	1.59
横山 剛司	887	1.50
西山 知延	747	1.26
燦キャピタルマネージメント役員持株会	739	1.25
木島 利男	653	1.10

出資比率は、小数点以下第3位を四捨五入

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会：毎年6月

基準日：定時株主総会 毎年3月31日
剰余金の配当 期末3月31日
中間9月30日

公告方法：電子公告

※但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先：〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL.0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所：大阪証券取引所JASDAQ市場
証券コード：2134

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

お問い合わせ

最新の事業内容、会社概要、IR情報等は、当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.sun-capitalmanagement.co.jp/>

燦キャピタル

検索

○IRに関するお問い合わせ

経営管理本部 IR担当 TEL.06-6205-5611または、上記ホームページよりお問い合わせいただけます。

○メール配信のご案内

最新のニュースリリースやホームページの更新情報等を、ご登録の皆様にご電子メールにてお知らせいたします。

当社ホームページの「IR／投資家情報」内右記バナーよりご覧いただけます。

IR情報メールの
配信で登録



Sun Capital Management Corp.

燦キャピタルマネージメント株式会社

〒541-0048 大阪市中央区瓦町二丁目3番15号 瓦町ビルディング

TEL: 06-6205-5611 (代表) / FAX: 06-6205-5711

<http://www.sun-capitalmanagement.co.jp/>

